

人が人を育てる。



国立大学法人

北海道教育大学 環境報告書

Hokkaido University of Education Environmental Report 2024

2024

Contents

| | |
|--|----|
| 学長メッセージ | 1 |
| 大学概要 | 2 |
| 環境に配慮した施設整備 | 4 |
|  | |
| 環境方針と環境保全推進実施体制 | 5 |
|  | |
| 環境保全計画 | 6 |
|  | |
| 環境保全の取り組み | 7 |
|  | |
| 環境汚染物質の管理と排出等について | 9 |
|  | |
| 環境教育活動の取り組み | 10 |
|  | |
| その他の環境保全活動の取り組み | 24 |
|  | |
| 社会的取り組み | 25 |
|  | |

【報告の対象範囲】

対象範囲：北海道教育大学の全ての組織を報告対象としています。

期間：2023年4月1日～2024年3月31日※
※一部に2023年3月以前、または2024年4月以降の情報も含めています。



※各ページの掲載内容に合致したSDGsのアイコンを表記しています。

「カーボンニュートラルの実現に向けて」

北海道教育大学は、全道に5つのキャンパスを持ち、教員就職者数は全国トップクラスを誇る日本最大規模の単科教員養成大学です。本学では、5つのキャンパスが互いに協力しながらスケールメリットを最大限に活かし、教員養成をはじめとした地域社会の発展に貢献する人材の育成を推進しています。

本学では、2005年度に施行された「環境配慮促進法」に基づき、『環境報告書』を毎年公表しています。2009年には、環境保全を確実に推進するため、道内5キャンパスに「キャンパス環境保全推進会議」を設置しました。教職員と学生が一体となり、環境保全推進計画を全学で実施する体制を整えています。

また、2014年に策定した「地球温暖化対策に関する実施計画2014」では、温室効果ガスの削減を目標に掲げ、2020年度には基準年度比24%の削減を達成しました。本学の取組は、経済産業省北海道経済産業局ホームページの「節電・省エネ事例」として取り上げられるとともに、経済産業省Youtubeチャンネルにおいて「令和4年度省エネ優良事例」として動画が配信されています。現在は、「地球温暖化対策に関する実施計画2022」に基づき、2030年度までに温室効果ガスを50%削減する新たな目標に向けて取り組んでいます。

教育と環境保全は密接に結びついており、持続可能な未来を築くためには、私たち教育機関が率先して環境に配慮した活動を進める必要があります。札幌校・旭川校・釧路校では、実践的な教員養成に力を注いでおり、地域の教育現場と連携しながら、課題解決に向けた「臨床的研究」にも取り組んでいます。また、函館校の国際地域学科と岩見沢校の芸術・スポーツ文化学科では、国際的視野を持ち、芸術やスポーツを通じて地域活性化を推進する人材を育成しています。これらの活動は、



北海道教育大学長 田口 哲

「地域プロジェクト」や「ソーシャルクリニック」「あそびプロジェクト」などの実践的な取り組みを通じて、地域社会に還元されています。

本学は、「Society 5.0」や「well-beingな社会」を見据えた教育と環境の両立を目指し、持続可能な開発目標（SDGs）の達成と2050年カーボンニュートラルの実現に向けた挑戦を続けてまいります。大学だけでなく、地域や企業などのステークホルダーとの連携を強化し、持続可能な未来に貢献するため、さらなる努力を重ねていきます。

皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年（令和6年）9月

北海道教育大学の教育理念

1 先進の人間教育

教育の活動は、人が育ち成長することへの飽くことなき関心と情熱から始まる。北海道教育大学の教育は、現代の人間と子どもについての先進的で深い知見と体験を根底に置き、人を育てることの喜びと尊さの自覚を不断に醸成する。

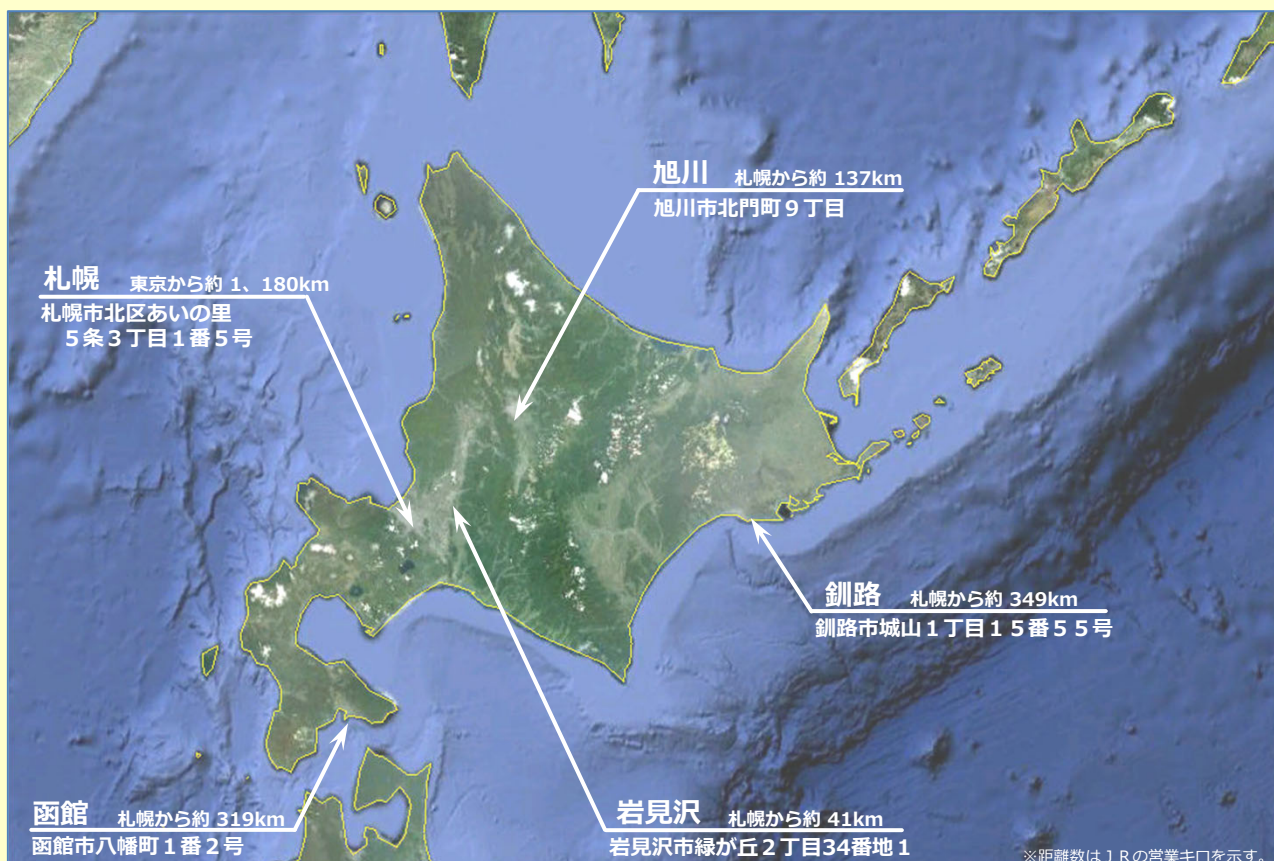
2 行動する教養

21世紀の社会と教育は、文理融合の複合的な教養、他者と積極的に関わり共存する柔軟な人間性を求めている。そのためには、芸術やスポーツを含めた多様な実践と体験に基づく、豊かで、社会に広がりを持つ人間性の育成が不可欠である。北海道教育大学の教育は、創造し行動する教養を旗印として現代の教養教育を展開する。

3 高い志の涵養

教育には、人のために生きる高い志が不可欠である。現代の教師には、子どもたちが抱える困難をわがこととして受け止める感受性が求められる。21世紀の地域と国際社会の諸課題への挑戦にも、同様の志が求められる。北海道教育大学の教育は、その全体を通して高い志の涵養をめざす。

本学位置図



札幌

札幌校（教育学部、大学院教育学研究科）、監査室、事務局、附属図書館、未来の学び協創研究センター、国際交流・協力センター、IRセンター、キャリアセンター、保健管理センター、教員養成イノベーション機構、附属札幌小学校、附属札幌中学校、札幌駅前サテライト、アーツ&スポーツ文化複合施設、学生寄宿舍（紫藻寮、北香寮）

旭川

旭川校（教育学部、大学院教育学研究科）、附属図書館、附属旭川幼稚園、附属旭川小学校、附属旭川中学校、大雪山自然教育研究施設、学生寄宿舍（築ヶ丘寮、春光寮）

釧路

釧路校（教育学部、大学院教育学研究科）、附属図書館、へき地・小規模校教育研究センター、附属釧路義務教育学校（前・後期課程）、学生寄宿舍（鶴ヶ岱寮）

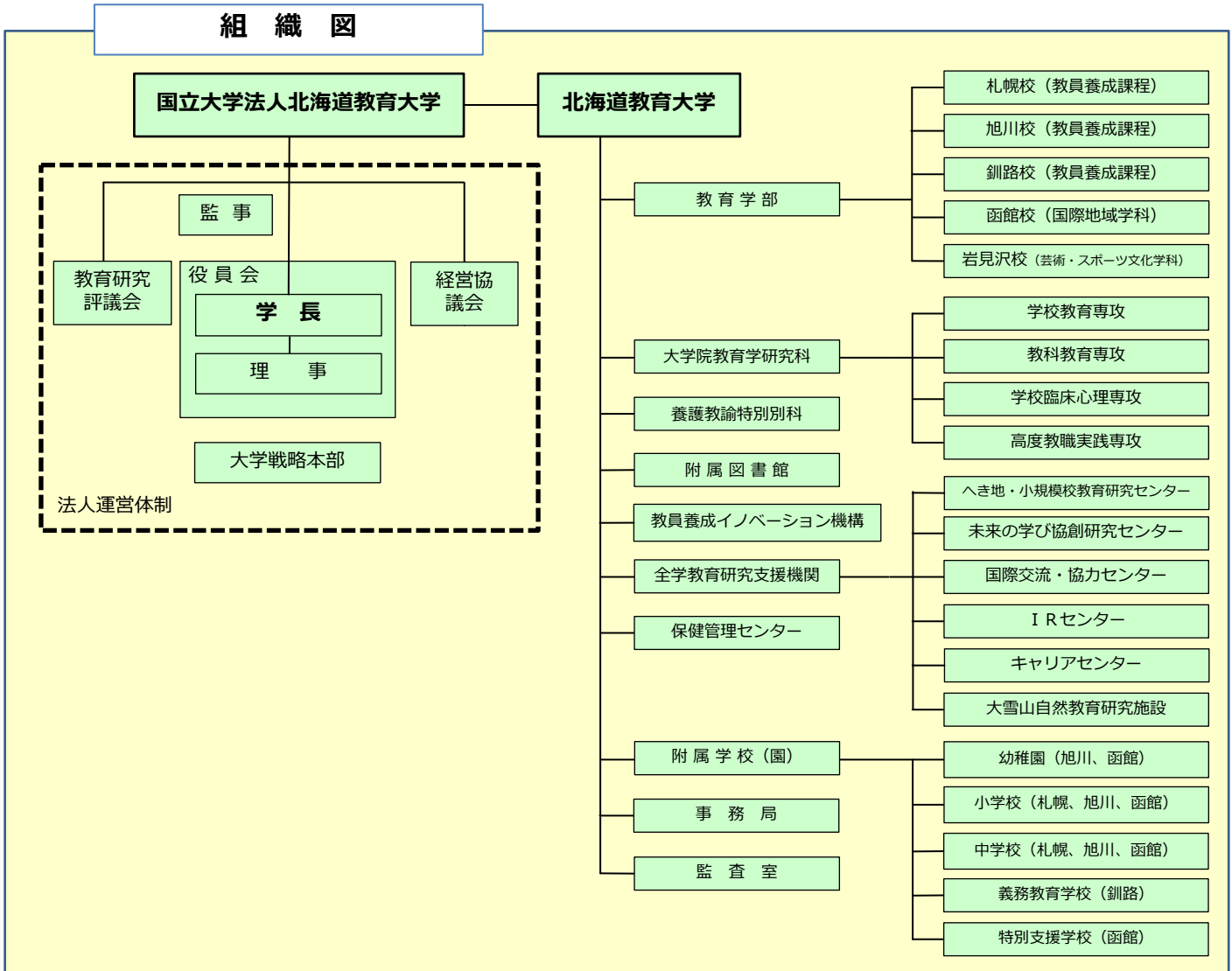
函館

函館校（教育学部、大学院教育学研究科、養護教諭特別科）、附属図書館、附属函館幼稚園、附属函館小学校、附属函館中学校、附属特別支援学校、学生寄宿舍（桐花寮、翠蔭寮）、合宿研修施設

岩見沢

岩見沢校（教育学部、大学院教育学研究科）、附属図書館、学生寄宿舍（希望寮、清明寮）

組 織 図



職員・学生数

2024年5月1日現在

| 区 分 | | 人 数 | |
|----------|----------------------|-------|------|
| 学 生 | 教育学部 | 5,055 | (4) |
| | 大学院教育学研究科 (学校教育専攻) | 1 | |
| | 大学院教育学研究科 (教科教育専攻) | 4 | |
| | 大学院教育学研究科 (学校臨床心理専攻) | 31 | |
| | 大学院教育学研究科 (高度教職実践専攻) | 117 | |
| | 養護教諭特別別科 | 40 | |
| | 計 | 5,248 | (4) |
| 園児・児童・生徒 | 附属幼稚園 | 115 | |
| | 附属小学校 | 1,215 | |
| | 附属中学校 | 948 | |
| | 附属義務教育学校 | 531 | |
| | 附属特別支援学校 | 60 | |
| | 計 | 2,869 | |
| 教 職 員 | 役員等 | 12 | |
| | 大学 | 346 | |
| | 附属学校 | 194 | |
| | 職員数 (事務系) | 233 | |
| | 計 | 785 | |
| 合 計 | | 8,902 | (4) |

※ () 内の数字は外国人留学生を内数で示す。

札幌校講義棟改修

経年による老朽化が著しく、教育活動に支障をきたしていたことから、講義棟改修3期計画の第1期目として「30年後の大学教育にも対応できる教室を目指して」を基本コンセプトに、老朽化した講義棟の再生、学修空間の機能改善を目的として整備しました。

学生ラウンジは3つの大教室を改修したもので、階段教室のレイアウトを活かしたつくりとなっており、学生たちの新しい憩いの場として活用されています。

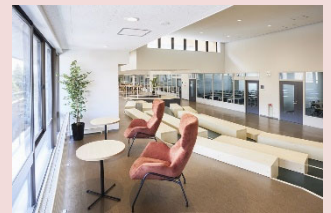
当該改修は、高断熱化の徹底と、消費電力の少ない機器の採用により、省エネ性能が高い建物として整備しました。

【環境に配慮した内容】

建物の断熱性能を向上（外壁、窓の樹脂製二重化）の断熱
LED照明器具の採用
高効率空調機の採用
全熱交換型空調換気扇の採用



学生ラウンジ改修後



学生ラウンジ改修後



普通教室改修後



アクティブラーニング教室改修後

各キャンパスLED照明交換 他

事務局及び附属札幌中学校で93台、他のキャンパスで349台、合計で442台の照明器具をLED照明に改修しました。

省電力・長寿命であるLED照明器具に改修することによって、節電効果とCO2の削減、管球交換の作業負担を少なくすることができ、また、蛍光灯と異なり有害物質が含まれない為、環境破壊のリスクも低く、処分が容易でコストを抑えることも可能となります。

【環境に配慮した内容】

室内の蛍光灯をLEDにすることによって1灯あたりの消費電力を80Wから32Wに改善（▲60%）し、5キャンパス合計で21,216W削減出来ました。



札幌校絵画演習室改修後

札幌あいの里団地基幹整備（受変電設備等）改修

あいの里団地内の電力線、通信線、受変電設備の老朽改修を行いました。今回の改修工事では環境負荷が少ないエコケーブルの使用、省エネ効果が高いトッランナーの変圧器を採用しました。

【環境に配慮した内容】

エコケーブルは、火災や焼却処理される場合に、塩化水素ガスなどの有害ガスやダイオキシン等が発生せず、煙の発生も大幅に抑えることが可能で地球環境への負荷を低減することができる材料です



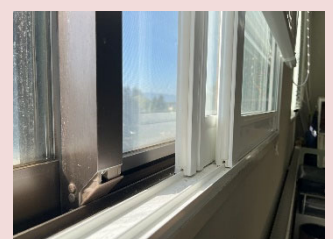
変圧器改修後

札幌校A研究棟内窓設置 他

札幌校A研究棟17箇所、函館校図書館4箇所に断熱性能に優れた内窓を設置しました。

【環境に配慮した内容】

内窓を設置することによって、窓面積あたりのエネルギー損失がおよそ半分になります。



内窓設置後

環境方針と環境保全推進実施体制

本学の使命は、北海道の歴史と風土に根ざしつつ、教師をはじめ地域のための優れた人材を養成し、さらに、教育、研究及び社会貢献活動を通じて、社会の発展と人類福祉の向上に貢献することです。この使命に相応しい大学環境を構築し環境に関わる世代間の平等を尊重する社会人の育成に努めます。

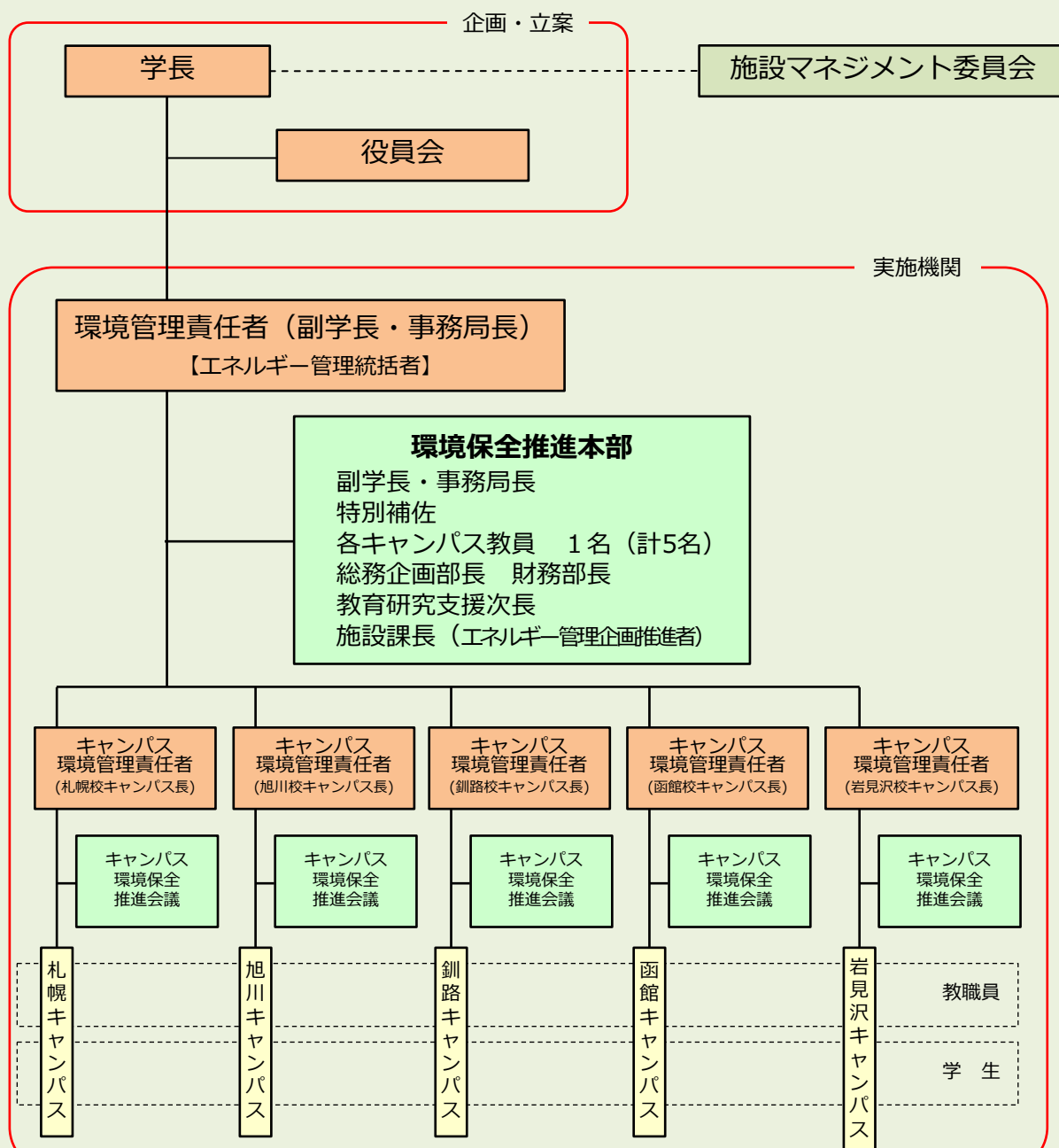


基本方針

本学の基本理念に基づき、各キャンパス内の全ての教職員及び学生等の協力のもとに、以下の活動を積極的に推進します。

- i 本学の特色である文系と理系の知恵を集積し、また附属学校や近隣の学校と連携し、北海道教育大学としての特長を活かした環境教育と研究の実践を進めます。研究成果の普及により、地域環境及び地球環境の改善に努めます。
- ii 教職員及び学生等全体で快適な学内環境の構築に努めます。学生の主体的な参加によって実施するために、学生による自主的な環境活動を推奨し、多様な環境プログラムが実施されるキャンパスを目指します。
このことにより、環境改善に資する能力を持った人材育成に努めます。
- iii 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化及び化学物質の適正管理などにより、汚染の予防と継続的な環境改善を行います。
これらにより環境負荷の少ない快適なキャンパスを実現します。
- iv 本学に適用される環境関連の法令及び本学が決めた事項を守ります。

環境保全推進本部体制図



地球温暖化対策に関する実施計画2022について

本学では、2009年3月に温室効果ガスの総排出量を、2012年度までに5%削減することを目標とした「国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化対策に関する実施計画」を策定し、目標を達成すべく努力してきました。

2013年7月に、実施計画に対する取組状況について自己評価を実施し、国の動向を踏まえ、新たに「国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化対策に関する実施計画2014」を策定、2020年度までに温室効果ガス排出量を8%（原単位当たり）削減するなどの目標を定め、最終年度には24.3%削減と目標を大きく上回る事が出来ました。

2020年10月、我が国は「2050年カーボンニュートラル」の実現を宣言し、2021年4月には2030年度の温室効果ガス削減目標として、2013年度から46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けるとの新たな方針が示されました。

本学では、更なる温室効果ガスの排出量削減に努めるべく、2022年3月に新たに「地球温暖化対策に関する実施計画2022」を策定、基準年を2013年度とし、2030年度までに50%削減することを目標として実行していきます。

詳細については、下記アドレスにてご覧になれます。

URL <https://www.hokkyodai.ac.jp/intro/effort/environment/chikyuondanka.html>

地球温暖化に関する実施計画 概要

国の動き

京都議定書
(2005年2月)
2008年～2012年
(第1約束期間)
温室効果ガス排出量
1990年比6%削減

COP17/CMP8
(2012年12月)
2013年～2020年
(第2約束期間)
温室効果ガス排出量
削減目標定めず

COP19/CMP9
(2013年11月)
温室効果ガス排出量
2005年比3.8%削減
公表
(1990年比3.1%増)

2050年カーボン
ニュートラル宣言
(2020年10月)

2030年度に温室効果
ガス排出量
2013年比46%削減

本学の対応

国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化に関する実施計画 2009年3月策定
数値目標：2009年度～2012年度 温室効果ガス総排出量2007年度比 5%削減

国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化に関する実施計画
実施状況及び自己評価（2013年7月）

自己評価まとめ
①数値目標は達成出来なかった。総排出量は3.5%増加
要因 建物床面積増加、基準年に比べ寒い冬 → 電力、暖房用エネルギー使用量の増加
②数値目標以外の行動目標は概ね達成。ただし、国からの指示によるものが主で自発的ではない。
要因 具体的な行動（数値）目標がない → 積極的な行動を促す計画が必要

国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化に関する実施計画2014 2013年7月策定
数値目標：2014年度～2020年度 温室効果ガス排出量2007年度比 8%削減

自己評価をふまえた修正
①事業規模（建物床面積増加）に左右されない算出方法に変更
温室効果ガス総排出量 → 温室効果ガス原単位当たり排出量（省エネ法に準じた算出方法）
②各キャンパスにおいて本計画に基づいた行動計画の策定

国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化に関する実施計画2014
実施状況及び自己評価（2021年7月）

自己評価まとめ
①数値目標は達成した。総排出量は24.3%削減
要因 高効率ボイラーの更新、LED照明改修などエネルギー効率の良い設備を導入
②数値目標以外の行動目標は概ね達成。
要因 循環型省エネルギー活動促進経費の導入によって、教職員及び学生の省エネルギー意識が向上し、更に省エネルギー活動を促進した

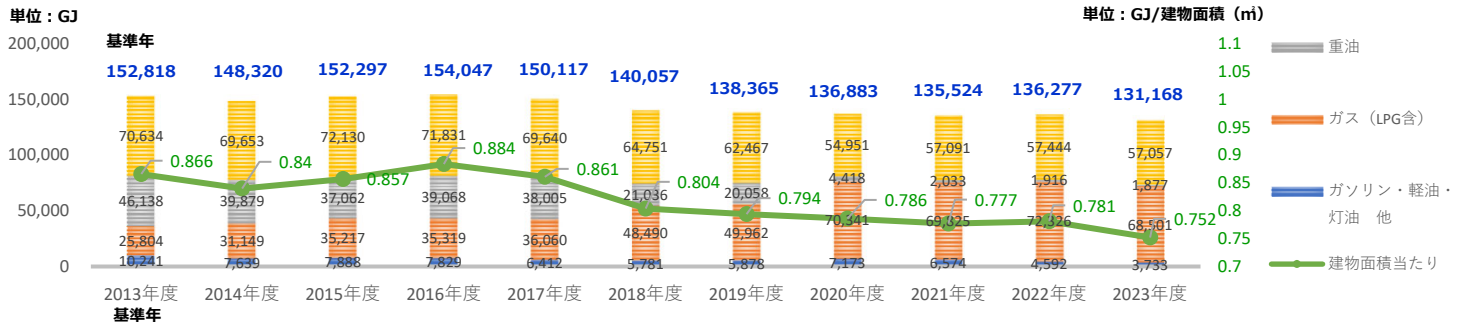
国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化に関する実施計画2022 2022年3月策定
数値目標：2022年度～2030年度 温室効果ガス排出量2013年度基準 50%削減



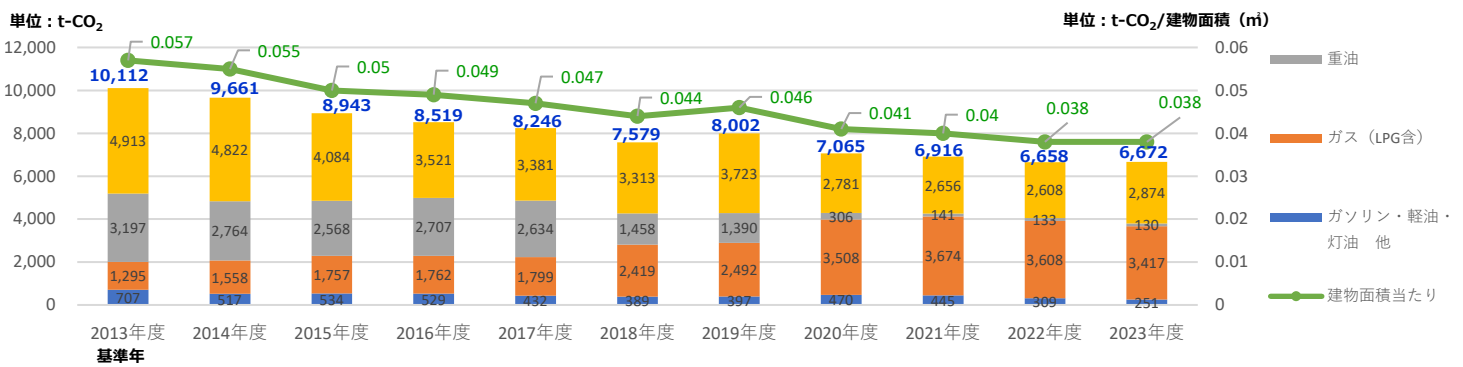
エネルギーの有効活用と節約の継続推進

2017年度から導入した、省エネ活動の成果を教育研究・省エネ改修へ還元する循環型経費制度により各キャンパスでの省エネ意識が向上し、また、照明器具LED化を始めとした省エネ改修を行っていることにより総エネルギー使用量が減少傾向にあります。更に、各キャンパスのボイラーの燃料を重油から天然ガスに転換したことにより2023年度時点で2013年度比の総エネルギー使用量が約13%減、CO2排出量が約33%減となっています。

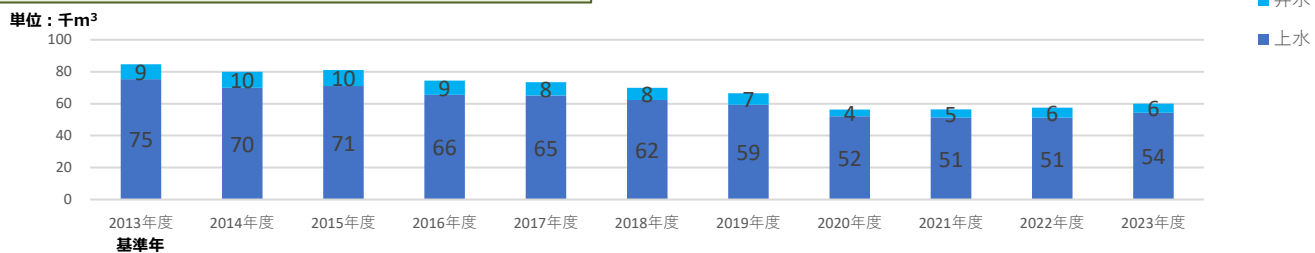
総エネルギー使用量



CO2排出量

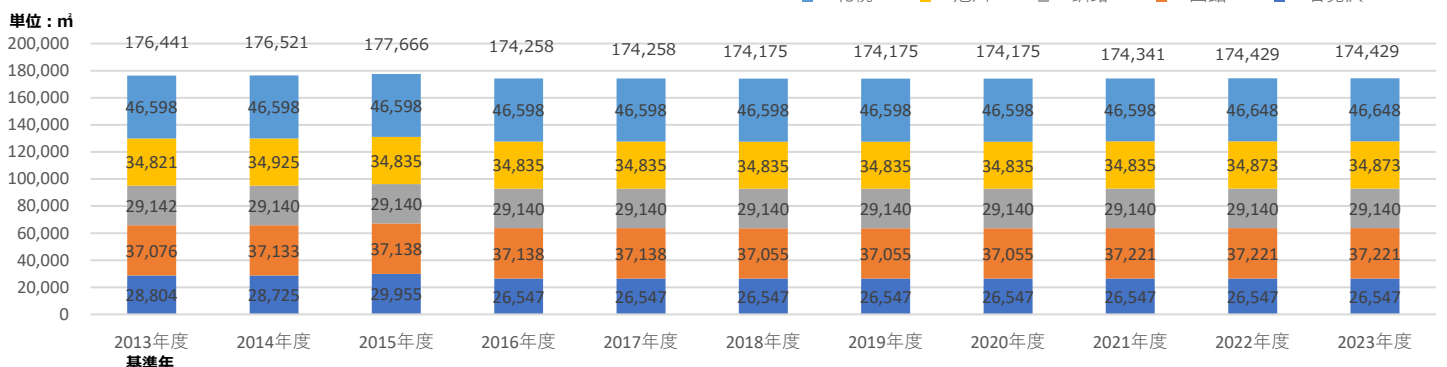


上下水使用量



建物面積 (原単位) 推移

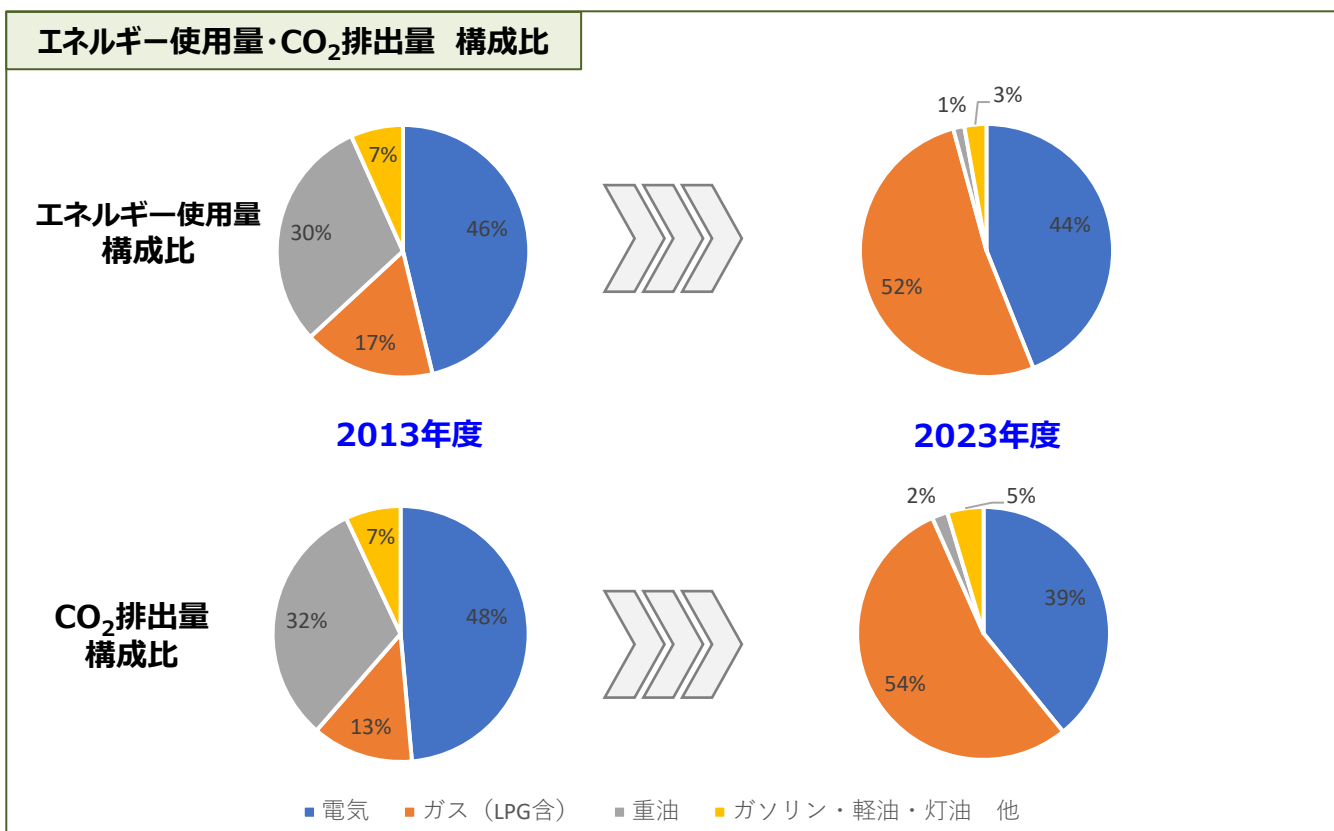
※職員宿舍及び学生寄宿舎を除くすべての大学・附属学校等を対象とする。





エネルギー転換の推進

暖房のための熱源である重油を、天然ガス（13A）への燃料転換を実施しています。2015年度に札幌校、2017年度に旭川・函館校、2020年度に釧路・岩見沢校の燃料転換を実施しており、2023年度には、エネルギー使用量構成比で、ガス使用量は2013年度比約17%から52%になり、重油使用量が約30%から1%となりました。



換算係数・算定範囲

エネルギー使用量換算係数

| 種類 | 換算係数 | 単位 |
|-----------|-------------|--------------------|
| 電気 | 9.97/9.28 | GJ/千kWh |
| 重油 | 39.10 | GJ/kl |
| 都市ガス（13A） | 45.00/46.00 | GJ/千m ³ |
| LPGガス | 50.80 | GJ/t |
| ガソリン | 34.60 | GJ/kl |
| 軽油 | 37.70 | GJ/kl |
| 灯油 | 36.70 | GJ/kl |

CO₂排出量換算係数（報告年別）

| 種類 | 換算係数 | | | | | | | | | | | 単位 |
|-----------|-------|----------------|----------------|-------------------------|---|-------------------------|---|---|----------------------------------|----------------------------------|-------|------------------------------------|
| | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | |
| 電気 | 0.688 | 0.678 | 0.683 0.454 | 0.669 0.480 0.365 | 0.632 0.476 0.557 0.454 0.628 | 0.666 0.502 0.453 | 0.643 0.508 0.505 0.551 0.447 | 0.593 0.505 0.427 0.308 0.371 | 0.601 0.427 0.495 0.379 | 0.549 0.262 0.459 0.434 | 0.549 | t-CO ₂ /千kWh |
| 重油 | 2.71 | | | | | | | | | | | t-CO ₂ /kl |
| 都市ガス(13A) | 2.299 | 2.244 2.294 | 2.244 2.294 | 2.244 2.294 | 2.244 2.294 | 2.244 2.294 | 2.244 | 2.244 | 2.244 | 2.244 2.194 | 2.244 | t-CO ₂ /千m ³ |
| LPGガス | 3.00 | | | | | | | | | | | t-CO ₂ /t |
| ガソリン | 2.32 | | | | | | | | | | | t-CO ₂ /kl |
| 軽油 | 2.58 | | | | | | | | | | | t-CO ₂ /kl |
| 灯油 | 2.49 | | | | | | | | | | | t-CO ₂ /kl |



1 下水の検査と管理の状況

| | 区分 | 検査と管理の現状 | | | |
|-----|-----|-----------|-------|------|------|
| | | 対象 | 検査と内容 | 検査回数 | 検査結果 |
| 札幌校 | 下水道 | 大学系統最終放流口 | 水質検査 | 年2回 | 適合 |
| 旭川校 | 下水道 | 最終放流口 | 水質検査 | 年1回 | 適合 |
| 函館校 | 下水道 | 2号館系 | 水質検査 | 年1回 | 適合 |
| | | 8号館系 | 水質検査 | 年1回 | 適合 |
| | | 厚生会館系 | 水質検査 | 年1回 | 適合 |

2 有害化学物質の管理と廃棄の状況

各種化学薬品類

| | 有害物質名称等 | 容器の形状等 | 分類 | 保管状況 | 処理等 | 管理記録 | 特別管理産業廃棄物管理責任者の選任 |
|------|---------|--------|-------------------------|----------|---|----------------------|-----------------------------|
| 各校共通 | 廃試薬・廃液等 | 専用容器 | クロム 水銀 シアン その他 | 屋内 分別 | 札幌校：2023年7月 旭川校：2023年6月 釧路校：2024年2月 函館校：2024年2月 全て業者による処分 | 購入等依頼書及び 産業廃棄物管理票 | 担当グループ係長 又は 各研究室使用責任者 |

3 廃棄物の処分量

| 固形廃棄物 | 数量 | | 単位 | 昨年度比 |
|-------|--------|--------|----|--------|
| | 2022年度 | 2023年度 | | |
| 可燃ゴミ | 230.0 | 232.0 | t | +0.9% |
| 不燃ゴミ | 27.4 | 25.0 | t | -8.8% |
| 産業廃棄物 | 20.6 | 16.3 | t | -20.9% |

■可燃ゴミ・不燃ゴミは2022年度に対して大きな変化はありません。大学での活動が昨年同様行われているためだと考えられます。

4 リサイクル量

| リサイクル品 | 数量 | | 単位 | 昨年度比 |
|-------------|--------|--------|----|--------|
| | 2022年度 | 2023年度 | | |
| 古紙 | 34.2 | 33.7 | t | -1.5% |
| びん・缶・ペットボトル | 89 | 74 | m3 | -16.9% |
| 資源化ゴミ | 7,467 | 7,045 | m3 | -5.7% |
| 家電 | 59 | 96 | 台 | +62.7% |
| 鉄くず | 14.2 | 1.4 | t | -90.1% |

■鉄くずのほとんどは、改修工事にて発生した有価材で、学生や職員の事業活動ではなく、工事の件数が関係しています。

5 環境保全コスト

| 分類 | 内容 | 金額 | | |
|----------------|----------------------------------|------------|------------|------------|
| | | 2022年度 | 2023年度 | 昨年度比 |
| (1)事業エリア内コスト | --- | 円 | | |
| (1)-1公害防止コスト | 大気汚染防止・水質汚濁防止・その他公害防止のためのコスト等 | 3,200,926 | 4,195,740 | +994,814 |
| (1)-2地球環境保全コスト | 地球温暖化防止・省エネルギーのためのコスト等 | 14,473,087 | 9,269,011 | -5,204,076 |
| (1)-3資源循環コスト | 資源の効率的利用・廃棄物のリサイクル、処理、処分のためのコスト等 | 20,902,344 | 18,737,287 | -2,165,057 |
| (2)管理活動コスト | 環境情報開示・緑化、美化、景観保持の環境改善対策のためのコスト等 | 13,377,741 | 4,100,177 | -9,277,564 |
| (3)研究開発コスト | 環境保全に資する・環境負荷の抑制のための研究開発コスト等 | 0 | 0 | — |
| (4)社会活動コスト | 事業（所）に直接的に関係のない社会活動におけるコスト等 | 0 | 0 | — |
| (5)環境損傷対応コスト | 自然修復・環境保全に関する損害賠償のためのコスト等 | 3,963,190 | 1,783,320 | -2,179,870 |

■地球環境保全コストは、省エネルギーのためのコストとして、事業費は減少していますが内窓設置や照明LED化を実施しています。



1. 2023年度の学部における主な環境関連科目の開設状況 及び 特色ある環境教育活動・取組

| キャンパス | 科目 | 担当教員 | 講義内容 |
|----------|--|--|---|
| 札幌校 | 臨海実習 | 高久 元 木村 賢一 | 本実験は、海産無脊椎動物に関して野外で採集を行い、生きている材料をもとにそれらの形態的特徴や多様性を学ぶ。 |
| | 野外実習 | | 野外活動を中心とした実習であり、植物及び菌類（キノコ）の同定・分類技術を身につける実習である。 |
| | 自然科学入門Ⅲ | | 生物の遺伝、進化、環境への適応、種間関係など生物学の基本的な事象を学ぶ。 |
| | 教育フィールド研究Ⅳ・H | | 土曜講座で小中学生に土壌動物の多様性に関して実物を観察しながら教える。 |
| | 生物学実験Ⅱ | 高久 元 並川 寛司 | 森林、河川など様々な環境における動植物の野外調査を中心に、調査方法、同定の方法、データ処理などの技術の習得を目指すとともに、環境と生物の関わりを学ぶ。 |
| | 生物学実験Ⅲ | 高久 元 木村 賢一 | 野外調査、サンプルのデータ解析を行い、都市林、住宅地など身近な環境の違いによるショウジョウバエ相の違いを明らかにする。 |
| | 現代と科学 | 尾関 俊浩 相澤 正隆 高久 元 的場 澄人 高木 聖子 | 各分野「環境とエネルギー」を共通テーマとし、地球科学、雪氷科学、惑星気象学、保全生態学などについて学ぶことで、人間を取り巻く自然環境を保全することの意味について考え、環境問題を各学生が考えるための基盤を獲得する。 |
| | 人文地理学 | 武田 泉 | あいの里や篠路等の札幌市北部を中心とした環境、交通の状況を实地に学ぶ取り組みを実施中（あいの里と篠路の都市開発状況、あいの里の樹林、周辺の湿地、緑地他への保全、道道札幌北広島環状線や丘珠空港の延伸計画の影響、他）。 |
| | 地誌学 | | 道庁石狩振興局の協力による木育講座の実施と例年実施している大学裏の茨戸川緑地での植樹地の草刈り体験を実施した。 |
| | 教育フィールド研究ⅣF | | 道庁石狩振興局・道森林整備公社・道造園コンサルタントの協力により、大学裏の茨戸川緑地での植樹地の草刈りと、道民の森神威尻地区での枝打ち・伐倒・植樹体験や、ラムサール条約登録湿地・宮島沼の視察（同水鳥センター協力）を行った。 |
| 地理学演習Ⅰ・Ⅲ | あいの里の地元自然保護団体であるカラカネイトンボを守る会からの情報提供を得て、パネル展の参観と同会トラスト地周辺の篠路福移湿原での埋め立てによる環境劣化の実情を、現地視察した。 | | |
| 旭川校 | 環境地球科学 | 佐藤 鋭一 | 現在の地球環境、気候変動を大局的に理解するためには、地球の歴史、地質現象、地球物質の循環や自然の成り立ちを理解することが重要である。本講義では、特に地球の気候変動に焦点をあて、気候変動のメカニズムを深く学ぶ。 |
| | 自然地理学 | 早川 裕一 熊野 貴文 | 北海道の自然環境などの事象について、現場の写真、映像や詳細な資料に基づいて解説し、自然地理学的に読み解くための基礎的な知識を習得する。 |
| | 生物学実験ⅠⅠ | 奥寺 繁 | 昆虫は小学校、中学校の生物分野における重要な学習内容の一つである。適切な指導に必要とされる昆虫の形態、系統、分類などについて学習するとともに、昆虫と環境とヒトの関わりに関する理解を深める。これらの内容を理解し、説明できる能力を身に付ける。 |
| 釧路校 | 地域の生態系演習1 | 伊原 禎雄 | 社会選択において開発と保全とのバランスを図ることが重要な課題となっている。このバランスを図るには地域社会が身近な生物や周囲の生態系が持つ意味を理解することが重要なカギとなる。そこで本科目では身近な生物や地域生態系を観察するための生態学的な視点。技能を学ぶとともにそれを基盤とした生態学的・環境教育的な課題についての理解を深める。授業形態として、各課題について学生自前で情報を渉猟し、考えをまとめたものを発表し、討論を行う。本授業の最後には、実際に学生が観察会を開催する。 |
| | 地域の生態系演習2 | | この授業科目においては、受講学生一人ひとりが自らの卒業論文作成に向けて、環境教育に関わる自らの研究テーマに関わる問題について、文献・図書の渉猟、ネット情報の収集・分析、そしてフィールドワークを通して、追究し、卒業研究を環境教育授業プランにまで応用できるようになることを目指す。 |
| | エコウォッチング | | 生物は季節に応じて変化する。この授業では生物の環境的かつ季節的変化を道東の豊かな自然環境を体感することで、環境と生物との関係や生態系の構造変化についての生態学的な知識を深めることを目的とする。 |
| | 山岳生態学実習 | | 北海道には優れた自然環境が多く残されている。特に山岳地域にはそうした環境が多く、標高の違いに応じて様々に変化する。本授業では北海道にある代表的な山岳地域にて生態学的観点に基づいた動植物観察を主体とした実習を行う。 |
| | 環境教育活動3・4 | | 野村 卓 伊原 禎雄 |



(2023年度の学部における主な環境関連科目の開設状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

| キャンパス | 科目 | 担当教員 | 講義内容 |
|-------|-----------------------|--|--|
| 釧路校 | 子どもと自然 (西表島研修) | 小淵 隆司 | へき地教育としての西表島の教育、環境教育としてのイリオモテヤマネコの保全教育について事前学習を行う。現地では、児童・生徒との交流、教師・島民との交流を通して、また、西表島の特異な環境を体験的に学習し、北海道のへき地教育や知床自然遺産などの保全教育を相対的に理解するための学習を行う。 |
| | 環境教育活動1・2 | | 学校教育において学校農園管理、環境美化活動、教科指導等に取り組むときに想定される農業体験や栽培体験に関する基礎的な知識を身につけるための講義と実習を行う。 |
| | 子どもの環境教育 | | 小学校環境教育実践について、その原理を学ぶ講義である。 子ども観、指導観、環境教育実践創造の視点、教育手法、小学校環境教育実践をめぐる動向など、実践するにあたっての原理的考えや教育手法について論じる。 小学校環境教育実践事例紹介、ビデオ視聴なども行う。 |
| | 食育と環境教育演習1・2 | 野村 卓 | 本演習は、食や農に関心を持つ学生に対して、科学的、学術的表現能力を高めるためのものである。食や農に関する情報がメディアを中心に流れている中、自身に有用な情報の取捨選択、生徒指導における情報の取捨選択のための指導に求められる能力を養う。 |
| | 環境リテラシー | | 地域や世界規模の環境問題の解決に貢献できるような環境教育を進めていくためには、「環境とは何か」「環境問題とは」「環境問題の原因」についての知識を整理し、構造化し、さらに「環境と人間との関係」への深い考察を試みる事が不可欠である。このような試みを行い、意思決定に生かしていく知的能力のこと「環境リテラシー」と定義する。この講義を通して、学生が環境リテラシーを身につけ、それを自ら磨き上げていくための方法に慣れることが期待される。 |
| 食育概論 | | 日本の近現代の食や農の変遷を通して、現在の食生活の現状と課題を理解します。また、食育が知育・徳育・体育の基礎としての位置づけや才育（グルメ教育）との違いを理解し、味覚教育を通じたコミュニケーション能力の基礎形成としての意義を理解します。これらを踏まえて、家庭科教育における食育、味覚教育に関する授業案作成能力を養います。 | |
| 函館校 | 自然科学入門1 (物理学) | 竹中 康之 | この授業では、物質とエネルギーに関わる環境科学に大きな影響力をもつ現代物理学の基礎的・基本的な原理や法則を学び、物理学の基本を理解する。 |
| | 現代地域教養3 (世界の環境問題) | 田中 邦明 | 世界各地で発生している代表的な環境問題の実情と解決取り組み事例を紹介しながら、それら環境問題発生の原因とメカニズムについて解説し、環境問題の自然科学的および社会科学的な2つの側面から問題解決の困難性や深刻化する理由についての理解を深める。 |
| | 子どもと環境教育 | | 環境教育の必要性と目的を自然科学および社会科学の両側面から理解し、学校や地域において持続可能な社会を実現するための実践理論や子どもの発達段階に見合った環境教育の代表的手法について講義する。さらに、季節に応じた野外での簡便な環境活動、人間と自然の関係を学ぶためのゲーム、地域の自然を生かしたネイチャーゲーム、社会における多様な環境啓発活動などの企画や準備の方法を修得させるため、野外での模擬授業や環境改善行動への具体的な参加や事例紹介をとおして実践的に学ぶ。 |
| | 地域環境科学概論3 (地球環境科学) | 大西 広二 | 本授業では、地球の生命体や生態系に決定的に大きな役割を演ずる地球環境変動について、現時点での問題点を紹介する。さらに、環境変動を支配している地球-太陽系システム、大気循環、海洋循環、大気-海洋相互作用などについて、その仕組みや役割について学ぶ。 |
| | 環境経済学 | 浅木 洋祐 | 本講義では、環境経済学の基本的な知識・理論について、さまざまな環境問題を取り上げながら学んでいく。環境問題がどのような発生して深刻化・多様化したのか、環境問題に対してどのような理論が構築され、いかなる政策が実施されてきたのか、経済学の観点から学習する。本講義を通して、環境経済学の基本的な枠組みの習得を目指す。 |
| | 地域政策演習Ⅰ・Ⅱ | | 環境問題や地域の社会経済、企業経営に関するテキストについての文献輪読と、学生が選んだテーマについての研究発表、企業などの見学を行う。 |



(2023年度の学部における主な環境関連科目の開設状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

| キャンパス | 科目 | 担当教員 | 講義内容 |
|---------|--|----------------|--|
| 函館校 | 基礎環境物理学 | 松浦 俊彦 | 本授業では、環境物理学の基礎として、エネルギーを基礎からわかりやすく解説し、各種エネルギーの基礎について理解を深める。さらに、発電や省エネなど、身近な問題を対象にした発展例についても学ぶ。 |
| | 専門環境物理学 1 (電磁気学) | | 電磁気学の基礎と電気エネルギーに関する専門講義。本授業では、物理学の基礎として、電磁気学を基礎からわかりやすく解説し、電気エネルギーの基礎について理解を深める。さらに、発電や省エネなど、身近な問題を対象にした発展例についても学ぶ。 |
| | 保全生物学 | 村上 健太郎 | 主に日本の自然環境を題材に、保全生物学、環境緑化学に関する講義を行う。特に外来種問題、絶滅危惧種問題を中心に生態学的な視野から解説し、人間社会と自然環境の健全な関わり方について考察する。 |
| | 地域環境生物学 | | 主に都市を対象として、地域の環境保全を目指した環境生物学（特に景観生態学）を中心に解説し、地域環境を保全するための方法について考える。特に植生、植物種に重点を置いて解説する。 |
| | 地域環境科学演習 1 E | | 文献購読（保全生態学や景観生態学の専門書や国内外の研究論文）や専門家の講演・コミュニケーションを通して、地域環境に関する科学的な調査・研究を行えるための基礎的能力を養う。 |
| | 生態学 | 三上 修 | 生物は絶えず環境から影響を受けている。たとえば、多くの生物は気温に応じて、行動が活発になったり不活発になったりする。一方、生物も環境に大きな影響を与えている。たとえば、現在、地球上にこれだけ酸素が豊富にあるのは、植物が存在するからである。つまり、大気の組成を生物が作り変えたということである。このような、生物と環境との相互作用を明らかにすることが生態学の目的の一つである。さらに生態学では、生物同士の複雑な関係が存在する理由も明らかにする。花が美しくったり、甘い蜜を出すのは、鳥や昆虫を誘引して、花粉を運ばせるためである。これらの複雑な関係がどのように進化したのかは、生態学がその答えを導いてくれる。さらに、現在、地球規模での生物多様性の減少が問題となっているが、どうやれば解決できるか考えだす上でも、生態学の知識は必須となる。本講義では、生命の多様性の実態と生じたメカニズム、環境と生物、生物同士の相互作用などを扱うことで、生態系とは何か、そして、それにとまなう環境問題を広く扱う。 |
| | 生物学基礎実験 | 三上 修 村上 健太郎 | (1)生物学、生命科学、環境学に関する知識を、単に知識として持つておくだけでなく、よく観察してみる、あるいは、実験してみることで、より深める。 (2)地域の自然環境および地域の環境問題についても理解する。 (3)生物学特有のデータのばらつきを理解する。 (4)ばらついたデータの解釈の仕方を学ぶ。 (5)パソコンをつかった基本的なデータ処理、統計解析を学ぶ。 (6)地理情報システムを用いた地域の自然の変化変遷について学ぶ。 |
| | 国際教育協力論 | 石井 洋 | 貧困、教育、環境、エネルギー、人口問題といった開発をめぐる多様な世界の状況について、参加型学習を通して理解する。その上で、これまでの国際教育協力の変遷を概観し、開発途上国が注目している日本の授業研究や理数科教育等に注目して、その技術協力の成果や課題について解説する。そして、開発をめぐる問題との深い関わりを実感し、その教育活動を展開できる能力と態度を養うため、開発教育の授業を実践する。 |
| | 環境データ科学 | 大久保 好章 | 本授業では、統計学や情報科学の手法によりデータを分析・解析するためのデータサイエンスの基礎を学ぶ。情報通信技術の急速な発展と普及によって蓄積された大量のデータを有効に活用するために、あらゆる分野においてデータサイエンスの素養が求められている。本授業を通して様々な分析手法とそれらの特徴を演習・実習を交えて学び、地域の環境問題の解決に寄与するデータ分析を実践できる力を養う。 |
| | 発展環境物理学実験 | 竹中 康之 松浦 俊彦 | 基礎環境物理学実験で学んだ内容をより一層広く深く掘り下げ、各種の物理現象（力学、光学、熱力学、電磁気学）に関する実験を行う。各種の実験を通して様々な物理現象を体験し、各種測定装置の取り扱いや基本的な物理量の求め方を学ぶ。 |
| 環境物理学実験 | 環境物理学実験では、基礎環境物理学実験で学んだ内容をより一層広く深く掘り下げ、各種の物理現象（力学、光学、熱力学、電磁気学）に関する実験を行う。 | | |

環境教育活動の取り組み



(2023年度の学部における主な環境関連科目の開設状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

| キャンパス | 科目 | 担当教員 | 講義内容 |
|-------|-------------------------------------|--------------------------------|---|
| 岩見沢校 | 環境社会学 | 前田 和司 | アウトドア・アクティビティ、自然体験活動を通じて、自然と共生した生活を創造するためには、環境問題や人と自然の関係のあり方を理解し問い直すことが重要である。本講義では、環境社会学の理論と具体的な事例研究を紹介しながら、それらを理解するための方法を説明する。 |
| | 環境問題と科学 | 能條 歩 | 地球規模で発生している環境問題について、自然科学的な視座から学ぶ。 |
| | 自然誌の読み解き | | 北海道の自然の特質を概観するとともに、北海道に見られる動植物・地形・地質などの学習や見学（現地野外講義）を通して、環境の動的平衡、自然現象と自然災害、災害に対する心構え、などについても考える時間をもち、今の北海道の自然環境がどのようにしてできあがってきたのかを学ぶ。 |
| | 野外環境教育概論 | 前田 和司 | 野外教育と環境教育の国内外における動向について講義する。 |
| | 野外環境教育指導法 I・II | 能條 歩 山田 亮 濱谷 弘志 | フィールドにおいて経験するアウトドア・アクティビティの意義への理解を深め、それを社会へ伝えていくことができる人材になるために、各種プログラムの計画を立案し、活動の指導・運営を実際に経験し、野外教育、環境教育の指導者の素養を身につけることを目的とする。 |
| | 自然認識法実習 I・II 自然体験プログラム実習 I・II | 能條 歩 富岡 生子 山田 亮 | プロジェクトWILDや自然観察による自然体験学習や環境教育に関するプログラムの体験学習を通して、自然を楽しく学ぶ方法論について学ぶ。 |
| | アウトドア ・ラーニングプロセス | 山田 亮 | 野外教育や環境教育、自然体験活動などのプログラム指導の過程で生じる様々な事象をもとにして、体験学習法をもとにした野外教育の専門指導者として必要な資質、スキル、指導・運営方法について国内外の実践事例を踏まえながら学習します。 |
| | 自然 | 能條 歩 坂巻 正美 岩澤 孝子 山田 亮 | 本講義では「自然」をテーマに、文化的な側面から「自然は人間文化と対峙するという見方」や「自然のなかに文化的模範を見つけるべきとする見方」といった自然観について検討するとともに、環境教育的な側面から「エコロジー」・「環境問題」をキーワードに自然についての理解を深める。 |
| | 野外環境教育特講 I | 山田 亮 濱谷 弘志 | 野外環境教育に関する様々な学問領域からのアプローチについて理解を促す授業。 |
| | 野外環境教育特講 II | 前田 和司 能條 歩 | 野外環境教育に関する様々な学問領域からのアプローチについて理解を促すことを目標とする。これまで学習した環境問題や自然と人と社会のあり方について考える時間を作る。 |

2. 2023年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組

(附属札幌小学校)

| 附属学校 | テーマ | 学年 | 教科 | 時間数 | 大学との連携 |
|----------------|----------------|----|----|-----|--------|
| 附属札幌小学校 | ふぞくのもりをたんけんしよう | 1 | 生活 | 16 | |
| | あさがおをそだてよう | 1 | 生活 | 17 | |
| | 茨戸川探検隊 | 2 | 生活 | 14 | |
| | やさいをそだてよう | 2 | 生活 | 18 | |
| | ほたる | 2 | 道徳 | 1 | |
| | お店で働く人 | 3 | 社会 | 11 | |
| | 植物を育てよう | 3 | 理科 | 7 | |
| | 植物の育ちと花 | 3 | 理科 | 2 | |
| | 野菜を育てて売ろう！ | 3 | 総合 | 30 | |
| | 季節と生き物 | 4 | 理科 | 22 | |
| | じいちゃんが教えてくれたこと | 4 | 道徳 | 1 | |
| | 水はどこから | 4 | 社会 | 13 | |
| | ごみはどこへ | 4 | 社会 | 13 | |
| | 茨戸川探検隊リターンズ | 4 | 総合 | 35 | |
| | 4 R 調査隊 | 4 | 総合 | 10 | |
| | 日本の国土と私たちの暮らし | 5 | 社会 | 40 | |
| | 食料生産を支える人々 | 5 | 社会 | 26 | |
| | 未来をつくり出す工業生産 | 5 | 社会 | 23 | |
| | かしこい消費者になろう | 5 | 家庭 | 5 | |
| | 食を究める | 5 | 総合 | 25 | |
| | クリーン大作戦 | 6 | 家庭 | 4 | |
| | 生物と環境 | 6 | 理科 | 12 | |
| | 季節に合わせ快適に暮らそう | 6 | 家庭 | 8 | |
| 地球規模の課題解決と国際協力 | 6 | 社会 | 8 | | |

- 3年 社会・理科・総合「野菜を育てて売ろう！」
 - 4年 総合「茨戸川探検隊リターンズ」
 - 4年 行事「附属キャンプ」
- (2023年5月～2024年3月 附属札幌小学校)

3年生では、理科「植物を育てよう」で野菜を育て、社会「はたらく人とわたしたちの暮らし」で野菜を売る立場の工夫を探り、総合的な学習の時間に野菜販売店を開く学習を行いました。保護者をお客さんとして招待し、仮想通貨を使って野菜を売買する体験を通して、生産者・消費者の両方の立場から食や環境について理解を深める姿が見られました。



4年生の総合的な学習の時間には、2学年の生活科「茨戸川探検隊」の学習を想起し、様々な生き物が生息する茨戸川の現状から問題を見出しました。川の水質を調査したり専門家の話を聞いたりすることをきっかけとして、茨戸川を守るためにできることを考えました。ごみ拾いなど、考えた取組の効果や実現性を検討しながら、環境問題を自分事として捉える姿が見られました。



宿泊行事として、4年生で「附属キャンプ」を実施しました。学校敷地内の「附属の森」にテントを張り、様々な自然体験活動をする行事です。ゆったりと活動できる時間を設定しネイチャービンゴなどの五感を使った体験を通して自然のよさを味わうことで、今身近にある環境を大切にしていきたいという思いをもつ機会となりました。



(2023年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

(附属札幌中学校)

| 附属学校 | テーマ | 学年 | 教科 | 時間数 | 大学との連携 |
|---------|-----------------------------------|----|--------|-----|--------|
| 附属札幌中学校 | 大根は大きな根？ | 1 | 国語科 | 3 | |
| | 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ | 1 | 国語科 | 5 | |
| | さくらははなびら | 1 | 国語科 | 2 | |
| | クマゼミ増加の原因を探る | 2 | 国語科 | 5 | |
| | モアイは語るー地球の未来 | 2 | 国語科 | 5 | |
| | 作られた「物語」を超えて | 3 | 国語科 | 5 | |
| | 私たちと現代社会 | 3 | 社会科 | 8 | |
| | 世界平和と人類の福祉の増大 | 3 | 社会科 | 15 | |
| | エネルギー資源とその利用 | 3 | 理科 | 5 | |
| | 人間と環境 | 3 | 理科 | 3 | |
| | 健康と環境 | 3 | 保健体育科 | 6 | |
| | 生物育成の技術 | 1 | 技術・家庭科 | 13 | |
| | エネルギー変換の技術 | 2 | 技術・家庭科 | 13 | |
| | 技術と生活や社会との関わり | 3 | 技術・家庭科 | 2 | |
| | 持続可能な食生活 | 2 | 技術・家庭科 | 1 | |
| | 持続可能な社会 | 2 | 技術・家庭科 | 3 | |
| | Pictures and our beautiful planet | 2 | 英語科 | 4 | |
| | Animals on the Red List | 3 | 英語科 | 20 | |
| | あのハチドリのように | 1 | 道徳科 | 1 | |
| | ガジュマルの木 | 1 | 道徳科 | 1 | |
| | ヤマメのふるさと | 2 | 道徳科 | 1 | |
| | 野生の猛禽を守るために | 2 | 道徳科 | 1 | |
| | 樹齢七千年の過ぎ | 2 | 道徳科 | 1 | |
| | マングース物語 | 2 | 道徳科 | 1 | |
| | よみがえれ、日本海 | 3 | 道徳科 | 1 | |
| | えりものこと | 3 | 道徳科 | 3 | |



■ 自己の理想の社会の実現を目指すうえで見えた問題と、その解決に向けた実践 (3年総合的な学習の時間「リレート」) 通年 附属札幌中学校

3学年の総合的な学習の時間は「リレート」という生徒が考えた名称をもち、平成29年度より継続しています。理想の社会の実現に向けた問題について考える探究的な学習を行う上で、生徒一人一人が探究テーマを設定することになりますが、令和3年度より、その際にSDGsの視点から現在の社会に対する問題意識をもち、テーマを設定するようにマイナーチェンジしました。広く「理想の社会の実現に向けた問題」について考える内容のため、必ずしも環境問題に直結するテーマばかりではありませんが、SDGsの視点に関連させることで、生徒の設定したテーマがこれまでよりも内容が具体的になったり、個人の探究を進める上で実際に調べたことや考えたことを実行することで効果を確かめようとするようになりました。

(2023年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

(附属旭川幼稚園)

| 附属学校 | テーマ | 学年 | 教科 | 時間数 | 大学との連携 |
|---------|--------------------|-------|----|-----|-----------|
| 附属旭川幼稚園 | 野菜を作ろう | 全学年 | - | 春～秋 | |
| | 幼稚園探検 | 全学年 | - | 春 | |
| | ご近所探検 | 全学年 | - | 春～秋 | |
| | 虫取り(園庭) | 全学年 | - | 春～秋 | |
| | 見つけた自然物を使って遊ぼう | 全学年 | - | 春～冬 | |
| | 壁面づくり | 全学年 | - | 春～冬 | |
| | 川遊び | 4～5歳児 | - | 夏 | |
| | 英語で遊ぼう ～季節のこと～ | 4～5歳児 | - | 1日 | 英語講師による指導 |
| | ピオトープ(池の生き物) | 全学年 | - | 春～秋 | |
| | 嵐山登山・旭岳登山 | 5歳児 | - | 秋 | |
| | 栗拾い | 4～5歳児 | - | 秋 | |
| | 野菜を美味しく食べよう(サンマ焼き) | 全学年 | - | 秋 | |
| | 落ち葉で焼きいも | 全学年 | - | 秋 | |
| | かまくら遊び | 全学年 | - | 冬 | |
| | 雪を使った園庭遊び | 全学年 | - | 冬 | |
| 兔の飼育 | 全学年 | - | 通年 | | |

■ 「川遊び」「おひさま登山」 川遊び 2023年7月10日(年長組)・18日(年中組) おひさま登山 2023年9月21日(年長組) 附属旭川幼稚園

子どもたちが自然により親しみ、体験から自然のよさを感じてもらうことを目的に、「川遊び」を実施しました。

7月10日に5歳児年長組23名が、18日に4歳児年中組25名が参加して活動しました。友達と一緒に小川に入り、水の冷たさや川のきらきらした流れ、泳ぐ小魚などに触れる体験を通じて、自然の面白さや不思議さなどを感じることができ、自然や生命への考えを深めるきっかけとなりました。



年長児は9月21日に旭岳登山にも挑戦しました。秋の紅葉が美しい北海道最高峰の旭岳を自分の足で登ることで平地では見られない草花をみたり、広く見渡せる景色を楽しんだりしながら短い北海道の秋を全身で感じることができました。





(2023年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

(附属旭川小学校)

| 附属学校 | テーマ | 学年 | 教科 | 時間数 | 大学との連携 |
|-----------------------|------------------|----|-----------|-----|--------|
| 附属旭川小学校 | 世界遺産 白神山地からの提言 | 5 | 国語科 | 15 | |
| | はたらく人とわたしたちの暮らし | 3 | 社会科 | 22 | |
| | 住みよいくらしをつくる | 4 | 社会科 | 24 | |
| | 国土の自然とともに生きる | 5 | 社会科 | 18 | |
| | しぜんを見よう | 3 | 理科 | 1 | |
| | チョウを育てよう | 3 | 理科 | 8 | |
| | 植物を育てよう | 3 | 理科 | 8 | |
| | 生き物を調べよう | 3 | 理科 | 5 | |
| | 風とゴムの力 | 3 | 理科 | 9 | |
| | 電気の通り道 | 3 | 理科 | 9 | |
| | こん虫の世界 | 3 | 理科 | 6 | |
| | 葉を出したあと | 3 | 理科 | 3 | |
| | 花をさかせたあと | 3 | 理科 | 2 | |
| | 太陽と地面 | 3 | 理科 | 7 | |
| | 季節と生き物 | 4 | 理科 | 8 | |
| | 天気による気温の変化 | 4 | 理科 | 5 | |
| | 夏と生き物 | 4 | 理科 | 6 | |
| | 秋と生き物 | 4 | 理科 | 7 | |
| | 冬と生き物 | 4 | 理科 | 6 | |
| | 生き物の1年 | 4 | 理科 | 3 | |
| | 流れる水と土地 | 5 | 理科 | 12 | |
| | 植物の発芽や成長 | 5 | 理科 | 17 | |
| | 生き物と食べ物・空気・水 | 6 | 理科 | 8 | |
| | ものの燃え方と空気 | 6 | 理科 | 9 | |
| | 植物の体 | 6 | 理科 | 15 | |
| | 土地のつくり | 6 | 理科 | 12 | |
| | 電気の利用 | 6 | 理科 | 12 | |
| | きせつとなかよし はる なつ | 1 | 生活科 | 12 | |
| | きせつとなかよし あき | 1 | 生活科 | 14 | |
| | きせつとなかよし ふゆ | 1 | 生活科 | 12 | |
| | きれいにさいてね わたしのはな | 1 | 生活科 | 10 | |
| | なかよくなるうね 小さなともだち | 1 | 生活科 | 10 | |
| | めざせ 野さいづくり名人 | 2 | 生活科 | 10 | |
| | めざせ 生きものはかせ | 2 | 生活科 | 10 | |
| | 生活を支えるお金と物 | 5 | 家庭科 | 2 | |
| | 暖かく快適に過ごす住まい方 | 5 | 家庭科 | 4 | |
| | 食べて元気に | 5 | 家庭科 | 13 | |
| | 持続可能な社会を生きる | 6 | 家庭科 | 4 | |
| | クリーン大作戦 | 6 | 家庭科 | 4 | |
| | すずしく快適に過ごす住まい方 | 6 | 家庭科 | 3 | |
| | こんだてを工夫して | 6 | 家庭科 | 13 | |
| | 「川のまち旭川」調査隊 | 4 | 総合的な学習の時間 | 75 | |
| ぼくの あさがお (D自然愛護) | 1 | 道徳 | 1 | | |
| げんきにそだて、ミニトマト (D自然愛護) | 2 | 道徳 | 1 | | |
| ツバメの赤ちゃん (D自然愛護) | 3 | 道徳 | 1 | | |
| 「ふれあいの森」で (D自然愛護) | 4 | 道徳 | 1 | | |
| イルカの海を守ろう (D自然愛護) | 5 | 道徳 | 1 | | |
| タマソン川 (D自然愛護) | 6 | 道徳 | 1 | | |

(2023年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

(附属旭川中学校)

| 附属学校 | テーマ | 学年 | 教科 | 時間数 | 大学との連携 |
|---------------------|--------------------|-----|--------------|-----|--------|
| 附属旭川中学校 | 環境地図づくり | 1 | 社会科(地理) | 6 | |
| | 資源エネルギーと産業 | 2 | 社会科(地理) | 2 | |
| | 環境問題への取組 | 3 | 社会科(公民) | 1 | |
| | 地球規模の環境問題 | 3 | 社会科(公民) | 1 | |
| | これからの資源・エネルギー | 3 | 社会科(公民) | 1 | |
| | 環境の負荷が小さい発電方法 | 3 | 理科 | 3 | |
| | 身近な環境の調整 | 3 | 理科 | 2 | |
| | 環境と人間の活動 | 3 | 理科 | 2 | |
| | 環境と保全 | 3 | 理科 | 1 | |
| | 科学技術の利用と自然環境の保全 | 3 | 理科 | 3 | |
| | 環境や資源を考えた生活 | 3 | 技術・家庭科(家庭分野) | 10 | |
| | 生活や産業の中で活用される技術の評価 | 1 | 技術・家庭科(技術分野) | 2 | |
| | 目的や制約条件に応じた物づくり | 1 | 技術・家庭科(技術分野) | 16 | |
| | 目的に応じた生物育成 | 2 | 技術・家庭科(技術分野) | 7 | |
| | 健康と環境 | 2 | 保健体育科 | 8 | |
| | Helping The Planet | 1 | 英語科 | 6 | |
| Our Energy Sources | 2 | 英語科 | 7 | | |
| Debating Doggy Bags | 3 | 英語科 | 9 | | |

■ 「川まち旭川」調査隊(第4学年・総合的な学習の時間) 通年 附属旭川小学校

旭川市は「川のまち」として知られており、本校の児童も、日常的に川を目にする機会が多く、旭川市内に川がたくさん流れていることは知っています。しかし、川と触れ合ったり、川について理解を深めたりする機会は多くありません。

そこで、第4学年で、「『川のまち旭川』調査隊(総合的な学習の時間)」という学習の中で、治水、利水、親水、環境、生物、防災、歴史など、多様な観点から旭川市と川との関わりや、川を生かした町づくりについて調べたり、発表したりする活動を実施しています。

また、第1学年～第5学年で、自然体験学習または宿泊体験学習として、河川や旭川近郊の自然を活用した体験学習を実施しています。

このような学習を通して、身近な自然のよさや大切さを理解し、自分や地域と関連付けながら自然を捉える資質・能力を育てています。





(2023年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

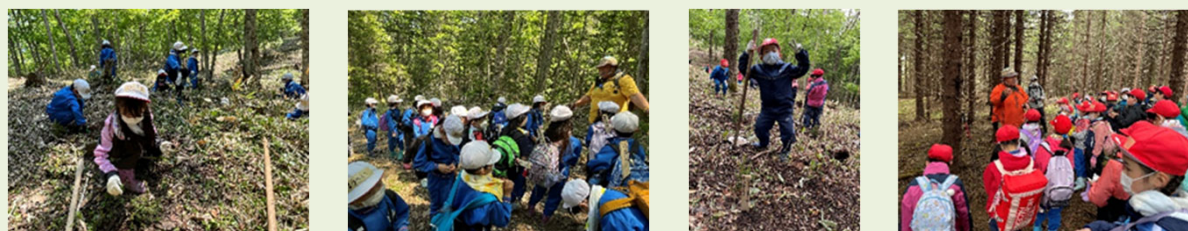
(附属釧路義務教育学校 前期課程・後期課程)

| 附属学校 | テーマ | 学年 | 教科 | 時間数 | 大学との連携 |
|------------------------|------------------------|---------|----------|------|-------------|
| 附属釧路 義務教育学校 前期課程 | 春がいっぱい | 2 | 生活科 | 4 | |
| | やさいをそだてよう | 2 | 生活科 | 13 | |
| | 秋がいっぱい | 2 | 生活科 | 5 | |
| | 生き物を調べよう | 3 | 理科 | 10 | |
| | チョウを育てよう | 3 | 理科 | 9 | |
| | こん虫の世界 | 3 | 理科 | 6 | |
| | こんなにすてき！附小のまわりの生き物たち | 3 | 総合 | 20 | |
| | 健康なくらしとまちづくり ～水はどこから | 4 | 社会科 | 4 | |
| | 水のゆくえ | 4 | 理科 | 7 | |
| | 守ろう、豊かな釧路の水源 | 4 | 総合 | 23 | |
| | 固有種が教えてくれること | 5 | 国語科 | 11 | |
| | 川と災害 | 5 | 理科 | 2 | |
| | 流れる水のはたらき | 5 | 理科 | 2 | |
| | 地球のたからを明日へつなげよう | 6 | 総合 | 20 | 大学教員，学生と連携 |
| | 生き物と環境 | 6 | 理科 | 4 | |
| | 私たちにできること | 6 | 国語科 | 9 | |
| | エゾシカ肉を使った学校給食 | 全学年 | 特別活動（食育） | | |
| | 土地のつくり | 6 | 理科 | 14 | 大学教員・学生との連携 |
| | 地震や火山と災害 | 6 | 理科 | 1 | 大学教員による指導 |
| | 附属釧路 義務教育学校 後期課程 | 花いっぱい運動 | 7～8 | 特別活動 | 2 |
| 校舎外清掃 | | 全学年 | 特別活動 | 1 | |
| 材料と加工に関する技術を未来に生かそう | | 7 | 技術・家庭科 | 1 | |
| エネルギー変換に関する技術の評価・活用 | | 9 | 技術・家庭科 | 10 | |
| 生物育成に関する技術 | | 8 | 技術・家庭科 | 8 | |
| 身近な消費生活と環境 | | 8 | 技術・家庭科 | 6 | |
| 住生活と自立 | | 7 | 技術・家庭科 | 3 | |
| 衣生活と自立 | | 8 | 技術・家庭科 | 3 | |
| 海は何を語るか | | 8 | 美術科 | 6 | |
| 「言葉」をもつ鳥，シジュウカラ | | 7 | 国語科 | 1 | |
| くまぜみ増加の原因を探る | | 8 | 国語科 | 5 | |
| モアイは語る -地球の未来- | | 8 | 国語科 | 1 | |
| つくられた「物語」を超えて | | 9 | 国語科 | 3 | |
| 世界の諸地域 | | 7 | 社会科 | 30 | |
| 資源・エネルギーと産業 | | 8 | 社会科 | 10 | |
| 環境問題や環境保全を中核とした考察 | | 8 | 社会科 | 4 | |
| 産業を中心とした考察 | | 8 | 社会科 | 4 | |
| 現代の日本と世界 | | 9 | 社会科 | 4 | |
| 持続可能な社会の実現に向けて | | 9 | 社会科 | 4 | |
| 植物の世界 | | 7 | 理科 | 4 | |
| 大地の成り立ちと変化 | | 7 | 理科 | 5 | |
| 動物の世界と生物の変遷 | | 8 | 理科 | 9 | |
| エネルギー変換と利用 | | 9 | 理科 | 5 | |
| 自然と人間 | | 9 | 理科 | 20 | |
| 科学・技術の発展と環境の保全 | | 9 | 理科 | 2 | |
| Water Problems | | 8 | 英語科 | 10 | |
| メッセージを持ち歩く | | 8 | 美術科 | 6 | |
| カラーハント | 8 | 美術科 | 6 | | |

■ 阿寒湖畔における前田一步園財団との環境教育プロジェクト 2023年5月下旬～11月下旬、2年生は年2回、3年生以上は年1回、学級毎の実施 附属釧路義務教育学校前期課程

◆「一人でも多くの方が自然の恵みを末永く享受できるよう、北海道の自然環境の保全とその適正な利用をすること」を目的に設立された前田一步園財団の協力を得ながら、北海道釧路市阿寒町の阿寒湖畔周辺の森や川、湖をフィールドとした自然体験活動を行いました。活動は2年生から6年生まで系統性をもってプログラムされています。

○第2学年では、生活科の学習と関連させながら、6年生までに行う環境学習のスタートとして、1人1本クロエゾマツの苗を植樹しました。苗には自分の名前と植樹した日付、「大きく育ててね」というメッセージを書いた木札を立て、数年後（5年生時）に成長の様子を確かめに行きます。秋には、学校の近くにある小さな森と、阿寒湖畔の森とを比べながら秋の生き物やキノコを探す活動を実施しました。「木に生えるキノコ」「葉に生えるキノコ」「動物の死骸に生えるキノコ」などがあることを知り、学校の周りと比べて、阿寒湖畔の森林には様々な樹木の種類や多様な生物環境が備わっていることから、色とりどりで多種多様なキノコが存在できることを実感しました。「ボッケ」や、温泉が湧き出ている地熱地帯など、今後の学習に関連する阿寒の森の特色にも触れることができました。



【2学年の活動の様子（春/植樹）】



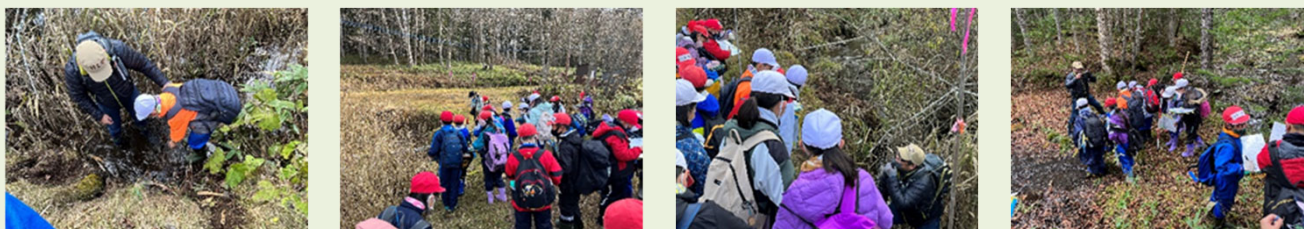
【2学年の活動の様子（秋/生き物とキノコ）】

○第3学年では、総合的な学習の時間「附小のまわりの生き物たち」をテーマに、主に理科「虫を調べよう」の学習と関連させながら、「昆虫を観察したり、生息している環境を調べたりする活動」を行いました。学校にある「附小の森」と阿寒の森を比較しながら、「水辺」「腐葉土」「樹木」「草原」「ボッケ」など、阿寒湖畔の多様な環境に即して昆虫の住みかも決まっており、多様な環境があるからこそ多くの昆虫が生息できることを実感しました。また、湖岸に堆積している平たい石で「水切り」を楽しむなど、自然に親しみました。



【3学年の活動の様子（夏/昆虫と住みか）】

○第4学年では、総合的な学習の時間「豊かな釧路の水源」をテーマに、主に社会科「健康なくらしとまちづくり」の学習と関連させながら、「阿寒川上流にダムは存在するのか」という課題を解決するため、阿寒湖に注ぎ込む「白湯川」を河口から上流に向かって遡り、温度、透明度、川幅などの変化を調査し、「水が地面から湧き出しているところ＝川のはじまり」を見付ける活動を行いました。水を湛える豊かな土壌の存在、森全体に網の目のように走る小さな川の存在を見聞きすることで、阿寒湖畔の森が優れた「水源涵養林」として自分たちの生活に関わっていることを実感しました。



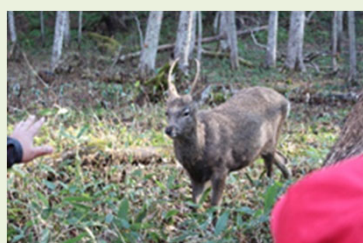
【4学年の活動の様子（秋/水源涵養林）】

○第5学年では、総合的な学習の時間「阿寒湖畔の森林守り隊」をテーマに、主に社会科・国語科と関連させながら、森林を守るために自分たちができることを考える活動を行いました。2年生の時に植樹した木に再び出会い、「大きく育っていると予想していたが、数年かけてもこのくらい(自分達の背丈以下)しか伸びていない」ことに驚き、森林保全の重要性や森林を守る大変さについて改めて実感し、「今の自分たちにできること」、「今後考えていかななくてはいけないこと」を表現する姿が見られました。また、理科「流れる水のはたらき」の学習と関連させながら、チップ川という清流で川の流れる速さを体感したり、プラスチックカラーボールを流して内側と外側の速さの違いを確かめたり、上流と下流での様子の違いを比べたりもしました。



【5学年の活動の様子（秋/森林保全・流水の働き）】

○第6学年では、総合的な学習の時間「地球のたからを明日へ届けよう」をテーマに、主に理科の食物連鎖・生態系の学習と関連させ、エゾシカによる食害を防ぐための「樹木のネット巻き」体験を実施しました。生物が食べ物、空気、水を通して周囲の環境と関わって生きていることについて理解を深めながら、自然環境の保全に進んで関わっていこうとする態度が養われました。また、「森の恵み」をいただくことが、「森を守ること」ひいては「動物・人間を守ること」につながるということを実感する学習の一環として、12月の給食で、全学年にエゾシカ肉を用いた「エゾシカバーガー」を提供しました。



【6学年の活動の様子～（冬/森林保全・エゾシカの食害）】



(2023年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

(附属函館幼稚園、附属函館小学校、附属函館中学校)

| 附属学校 | テーマ | 学年 | 教科 | 時間数 | 大学との連携 |
|---------|--------------------------------|----|------------|-----|------------|
| 附属函館小学校 | わたしのはなをそだてよう | 1 | 生活科 | 11 | |
| | つぼみ | 1 | 国語科 | 8 | |
| | 大きくそだてわたしの野さい | 2 | 生活科 | 13 | |
| | 植物を育てよう | 3 | 理科 | 7 | |
| | こん虫の世界 | 3 | 理科 | 5 | |
| | ありの行列 | 3 | 国語科 | 7 | |
| | 季節と生き物（春夏秋冬） | 4 | 理科 | 20 | |
| | 健康なくらしとまちづくり（ゴミ、水） | 4 | 社会科 | 27 | |
| | 台風接近 | 5 | 理科 | 4 | |
| | 川と災害 | 5 | 理科 | 1 | |
| | 植物の発芽や成長 | 5 | 理科 | 13 | |
| | 花のつくり 花から実へ | 5 | 理科 | 7 | |
| | 日本の国土とわたしたちのくらし | 5 | 社会科 | 20 | |
| | 森林とともに生きる | 5 | 社会科 | 6 | |
| | 環境をともに守る | 5 | 社会科 | 5 | |
| | 着方の工夫で快適に | 5 | 家庭科 | 3 | |
| | 暖かい住まい方で快適に | 5 | 家庭科 | 3 | |
| | 固有種が教えてくれること | 5 | 国語科 | 10 | |
| | 自然環境を守るために | | | | |
| | 算数で読み解こう ～地球温暖化について考えよう～ | 5 | 算数 | 2 | |
| | Who is your hero? | 5 | 外国語 | 8 | |
| | ものの燃え方と空気（大気） | 6 | 理科 | 9 | |
| | 生き物と食べ物・空気・水 | 6 | 理科 | 6 | |
| | 水溶液（水質） | 6 | 理科 | 9 | |
| | 電気の利用（エネルギー） | 6 | 理科 | 11 | |
| | 人の生活と自然環境 | 6 | 理科 | 1 | |
| | 近代国家をみざして | 6 | 社会科 | 9 | |
| | 地球規模の課題の解決と国際協力 | 6 | 社会科 | 8 | |
| | すずしい住まい方で快適に | 6 | 家庭科 | 4 | |
| | 算数で読み解こう ～プラスチックゴミについて調べよう～ | 6 | 算数 | 2 | |
| 附属函館中学校 | エネルギー変換に関する技術 | 3 | 技術 | 17 | |
| | 世界の諸地域（南アメリカ州） | 1 | 社会科（地理的分野） | 4 | |
| | 日本の地域的特色と地域区分 | 1 | 社会科（地理的分野） | 8 | |
| | 日本の諸地域（九州地方） | 1 | 社会科（地理的分野） | 5 | |
| | 地球社会と私たち | 3 | 社会科（公民的分野） | 15 | |
| | 身のまわりの物質とその性質 | 1 | 理科 | 4 | |
| | 物質と状態変化 | 1 | 理科 | 1 | |
| | 大地の変化 | 1 | 理科 | 5 | |
| | 電流 | 2 | 理科 | 4 | |
| | 天気とその変化 | 2 | 理科 | 2 | |
| | 生命の連続性 | 3 | 理科 | 2 | |
| | 運動エネルギー | 3 | 理科 | 2 | |
| | 化学変化とイオン | 3 | 理科 | 4 | 大学教員、学生と連携 |
| | 地球と宇宙 | 3 | 理科 | 2 | |
| | 科学技術と人間 | 3 | 理科 | 17 | |
| | ガイアの知性 | 2 | 国語科 | 5 | |



(2023年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

(附属函館幼稚園)

| 附属学校 | テーマ | 学年 | 教科 | 時間数 | 大学との連携 |
|---------|----------------|-----|----|-----|--------|
| 附属函館幼稚園 | 種の野菜と苗の野菜 | 全学年 | | 春～秋 | |
| | 花の色、草の色（色水遊び） | 全学年 | | 春～秋 | |
| | いちご狩りに行こう | 全学年 | | 1日 | |
| | 温泉を掘ろう | 全学年 | | 夏 | |
| | 水遊び | 全学年 | | 夏 | |
| | 虫取り、虫の飼育 | 全学年 | | 夏 | |
| | 育てた野菜でカレーライス作り | 5歳児 | | 1日 | |
| | 栗、どんぐり、落ち葉拾い | 全学年 | | 秋 | |
| | 秋で遊ぼう | 全学年 | | 秋 | |
| | 雪遊び | 全学年 | | 冬 | |
| | 氷で遊ぼう | 全学年 | | 冬 | |
| | スキー遊び、そり遊び | 全学年 | | 冬 | |



■ 「生きる力」の取り組み

春～秋 附属函館幼稚園

本園では、野菜栽培を通して子どもたちの「生きる力」を育む取り組みをしています。春の始まりとともに、トマト、キュウリ、枝豆、じゃがいも、とうもろこし、キャベツ、ニンジンなど様々な野菜の栽培を土づくりから行いました。種や苗についても調べ、友達と力を合わせて植えて、育てて、収穫し、料理をして味わうまでの過程を体験します。園の教職員も積極的に参加し、子どもたちと一緒に作業を進めていきました。

野菜栽培を通して、自然や植物の成長に対する知識や理解を深め、責任感、忍耐力、協同性や健康への意識などの「生きる力」を育むことができました。



■ 2023年度 省エネ対策について

2023年度の本学の省エネ対策は、燃料費高騰の背景もあったことから、教育研究及び業務等に支障がない範囲で、2023年5月～2024年3月31日まで省エネ対策を実施しました。

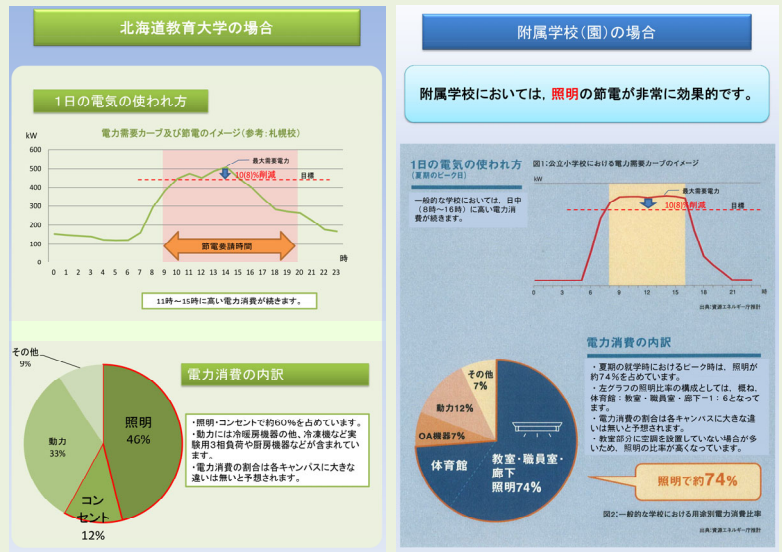
【2023年度省エネ対策内容】

対象 全学（附属学校、学生寄宿舎含む全ての施設）

期間 2023年5月9日～2024年3月31日

対策

- (1) 意識啓発
省エネポスターの掲示
電力・ガス・重油使用状況の公表
- (2) 省エネ目標に対応した省エネロードマップ(案)の作成
- (3) 空調・暖房設備
空調機の温度設定を見直す
クールビズ・ウォームビズを実施し、室温設定を見直す
- (4) 照明設備
必要照度を確保して照明器具の間引き
可能な限りLED電球への交換
使用していないエリアの消灯の徹底
昼休みの室内消灯の徹底
- (5) 空調、照明設備以外の設備
暖房便座を節電モードに設定
洗面所ハンドドライヤーの使用中止
パソコン（ディスプレイ含む）の省エネモードへの設定及び未使用時の電源オフ
- (6) 全学で夏季一斉休業の実施
2023年8月14～16日



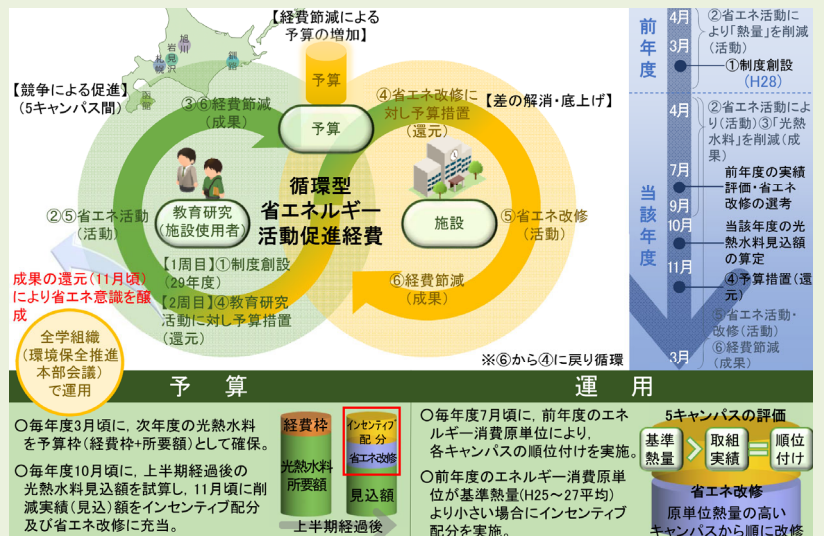
■ 省エネ活動による循環型省エネサイクル構築の取組について

【省エネ活動の成果を教育研究・省エネ改修へ還元する

「循環型省エネサイクル」の構築】

「活動」、「成果」、「還元」による循環型省エネサイクルを構築するため、省エネ活動によって削減した光熱水料予算（成果）を、設備の更新及び教育研究活動へ還元する「循環型省エネエネルギー活動促進経費制度」を創設し、2017年度より運用を開始しています。

※2023年度は光熱費高騰によりインセンティブ経費のみ配分





地域貢献

本学には、様々な専門分野の教員がおり、その研究活動は多岐にわたり、各種審議会委員や講演会の講師、地域の環境活動等を積極的に行っています。これら教員の研究活動から、環境保全及び環境教育に関わる教員の地域貢献を次に示します。

1 各種審議会委員

| キャンパス名 | 教員名 | 職名 | 名称 | 委嘱機関 | 期間(任期) |
|--------|--------|-------------------|---------------------------------------|---------------------|--|
| 札幌校 | 大賀 京子 | 准教授 | 北海道国土利用計画審議会 | 北海道 | 2023.2.1~2026.1.31 |
| | 尾関 俊浩 | 教授 | 道路管理技術委員会 | 一般財団法人北海道道路管理技術センター | 2022.4.14~2024.3.31 |
| | | | 雪氷防災実験棟運営委員会 | 国立研究開発法人防災科学技術研究所 | 2022.4.5~2024.3.31 |
| 旭川校 | 安藤 秀俊 | 教授 | 旭川市緑の審議会委員 | 旭川市 | 委嘱日から2年間(2023.12上旬~) |
| | 植田 真夕子 | 准教授 | 旭川市ごみ減量等推進優良事業所認定審査会委員 | 旭川市 | 委嘱日~2023.11.13 |
| | 奥寺 繁 | 准教授 | 旭川市環境審議会委員 | 旭川市 | 2023.6.1~2025.5.31 |
| | | | 上川総合振興局道営農業農村整備事業等環境情報協議会委員 | 北海道 上川総合振興局 | 承認日~2024.3.31 |
| | 角 一典 | 教授 | 旭川市廃棄物減量等推進審議会委員 | 旭川市 | 2023.6.1~2025.5.31 |
| | 小泉 匡弘 | 准教授 | 旭川市緑の審議会委員 | 旭川市 | 2023.12上旬~2年間 |
| 佐藤 鋭一 | 准教授 | 十勝岳ジオパーク推進協議会学識顧問 | 十勝岳ジオパーク推進協議会 | 承認日~2024.3.31 | |
| 釧路校 | 伊原 禎雄 | 教授 | 釧路市文化財保護審議会 | 釧路市教育委員会 | 2021.12.1~2023.11.30 2023.12.1~2025.11.30 |
| | | | 釧路市環境審議会 | 釧路市 | 2021.12.8-2023.12.7 2023.12.8-2025.12.7 |
| | | | 環境省希少種野生動植物保存推進委員 | 環境省 | 2021.4.1-2024.3.31 |
| | 鎌田 浩子 | 教授 | 釧路市廃棄物減量等推進審議会 | 釧路市 | 2021.11.01~2023.10.31 2023.11.10~2025.10.31 |
| | 川西 亮太 | 准教授 | 国土交通省北海道開発局釧路開発建設部 河川水辺の国勢調査アドバイザー | 国土交通省 北海道開発局 | 2023.4.1-2024.3.31 |
| | 中村 太一 | 教授 | 釧路市文化財保護審議会 | 釧路市教育委員会 | 2021.12.1~2023.11.30 2023.12.1~2025.11.30 |
| | 酒井 多加志 | 教授 | 釧路市・景観審議会委員 | 釧路市 | 2023.7.1~2025.6.30 |
| 函館校 | 奥平 理 | 准教授 | 函館市都市景観審議会 | 函館市 | 2021.6.27~2025.6.26 |
| | 三上 修 | 教授 | 函館市環境審議会 | 函館市 | 2021.12.1~2025.11.30 |
| | 村上 健太郎 | 准教授 | 函館市緑化審議会 | 函館市 | 2023.2.2~2025.2.1 |
| 岩見沢校 | 能條 歩 | 教授 | 岩見沢市公害対策審議会 | 岩見沢市 | 2021.6.1~2025.5.31 |
| | | | 北海道環境審議会 | 北海道 | 2022.12.16~2024.12.15 |
| | | | 北海道環境教育等推進懇談会 | 北海道 | 2024.1.13 |



2 講演会の講師

| キャンパス名 | 教員名 | 職名 | 名称 | 委嘱機関 | 期間(任期) |
|--------|-------|-----|---|-----------|---------------------|
| 旭川校 | 奥寺 繁 | 准教授 | 指定外来種アズマヒキガエル捕獲体験学習会講師 | 旭川市 | 2023.4.28 |
| 釧路校 | 川西 亮太 | 准教授 | 北海道大学総合博物館2023年度 第12回土曜市民セミナー 講師 | 北海道大学 | 2024.3.9 |
| | 境 智洋 | 教授 | 工コ教室 講師 | 釧路市 | 2023.10.28 |
| 函館校 | 田中 邦明 | 教授 | 環境学習 外部講師 (講話内容: 大沼をとりまく環境について) | 北海道七飯高等学校 | 2023.9.6~2023.12.20 |
| | | | 環境美化意識啓発事業 講師 (講話内容: 恵山海浜公園においてマイクロプラスチックごみの問題について実地指導を行う) | 函館市 | 2023.10.7 |
| 岩見沢校 | 能條 歩 | 教授 | 令和5年度環境教育・環境保全活動に関する プログラム実践講座 講師 | 北海道 | 2024.2.15 |
| | | | 令和5年度北の国・森林づくり技術交流発表会 講師 | 北海道 | 2024.2.15 |

3 地域の環境活動及び啓発活動

| キャンパス名 | 教員名 | 職名 | 名称 | 委嘱機関 | 期間(任期) |
|--------|-------|----------------------|--|----------------------------|-----------------------|
| 釧路校 | 川西 亮太 | 准教授 | 釧路湿原自然再生協議会河川環境再生小委員会 | 釧路湿原 自然再生協議会 | 2022.12~ |
| | | | 釧路湿原自然再生協議会地域づくり小委員会 | 釧路湿原 自然再生協議会 | 2022.12~ |
| 函館校 | 浅木 洋祐 | 教授 | 厚沢部町カーボンニュートラルビジョン策定委員会 | 厚沢部町 | 2022.7.19~2024.7.18 |
| | | | 厚沢部町ゼロカーボン推進協議会 | 厚沢部町 | 2023.8.22~2025.8.21 |
| | 奥平 理 | 准教授 | 七飯大沼道路環境検討懇談会 | 北海道開発局 | 2023.7.24~2024.3.31 |
| | 畠山 大 | 准教授 | 函館市地球温暖化対策地域推進協議会 | 函館市 | 2023.4.1~2025.3.31 |
| | 松浦 俊彦 | 教授 | 北海道スーパーサイエンスハイスクール 運営指導委員会 | 北海道 函館中部高等学校 | 2020.5.15~2024.3.31 |
| | | | 市立札幌開成中等教育学校 スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会 | 市立札幌 開成中等教育学校 | 2022.7.14~R8.3.31 |
| 村上 健太郎 | 准教授 | 新名神高速道路滋賀県域自然環境保全検討会 | 西日本高速道路 株式会社関西支社 | 2023.5.29~2024.3.31 | |
| 岩見沢校 | 能條 歩 | 教授 | 公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会・ 指導者養成委員会委員 | 公益社団法人日本シェアリ ングネイチャー協会 | 2023.7.4~2024.3.31 |
| | | | 北海道自然体験活動サポートセンター・理事長 | NPO法人北海道自然体験活 動サポートセンター | 2023.6.1~2024.5.31 |
| | | | 化石採集フィールドワーク講師 | 岩見沢市立美園小学校 | 2023.9.22~2023.10.31 |
| | | | 小学校6年理科「地層の見学」および 自然体験活動の講師 | 今金町教育委員会 | 2023.10.27~2023.10.28 |

